

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

箱根観光情報新聞
2025冬号第二版
令和8年2月3日発行
企画制作
箱根観光情報研究会
協力
箱根モビリティサービス㈱
制作責任者:美馬 哲
発行部数:700部

無料

ご自由にお持ちください

箱根観光情報研究会

箱根観光情報新聞

箱根遊船 大茶会運航開始

二年前に双胴船「SORAKAZE」を就航させて話題を呼んだ箱根遊船株式会社が昨年末に「大茶会」の運航を開始した。

「大茶会」は一九八六年竣工の「十国丸」をリノベーション、赤と緑、茶色に彩られた船体が印象的だ。テーマは「お茶」。

「一杯のお茶」がもたらす「一期一会」の出会いと発

見がコンセプトだ。

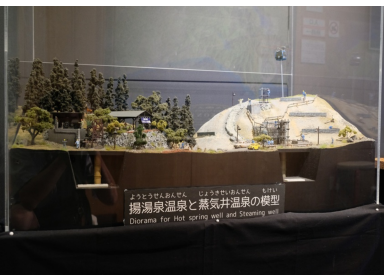
抹茶の緑が基調の船内には様々な形のイスとテーブルが配置され、二階船室中央には黄金に煌めく茶室をイメージした畳席「茶室金風庵(きんぷうあん)」がある。お気に入りの場所で見つけよう。

四階デッキには茶畑だんだんと名付けられた展望席が設けられているので、声



ノ湖の眺望が楽しめる。一階売店では、緑茶が入った大茶会ホトル緑茶や抹茶体験セット、茶葉ケーキ、大茶会プリンアイスなどテーマのお茶を堪能できるドリンクやスイーツの他、軽食として大茶漬(しゃけ)、ふじさんおにぎりも購入できるのが嬉しい。

本誌編集長は抹茶プリンを堪能、美味しかったとコメントしている。なお、大茶会は箱根関所跡港↓元箱根港↓箱根園港↓湖尻港↓箱根園港↓箱根関所跡港を七〇分で運航する



るのが基本だが、現在、僚船の「SORAKAZE」がメンテナンスのためにドック入りしている関係で、七〇分コースは午前と午後の各一便に減便されている。「SORAKAZE」が復帰する三月中旬以降、「大茶会」は基本湖尻港までの運航となる(ご利用の前にホームページで要確認)。

時間があれば七〇分の船旅がお勧め。また、天気が良ければ、展望席からの風景も見逃さないように。五月中旬頃までなら白い富士山の姿が楽しめるだろう。

箱根で一番の人氣観光スポットと言えば大涌谷だ。現在もいたるところから噴気が上がっている現役の活火山の火口だ。

訪れた人はその雄大な景観を楽しみながら現在も続く地球の営みを感じることが出来るスポットだ。ここでしか販売されていない黒たまごも人氣。黒たまごは一ついただくも七年長生きできるそうだ。



本誌編集長は日頃から残念に感じていた。そこで、今号では大涌谷をさらに楽しめる施設として大涌谷園地内にある「箱根ジオミュージアム」を紹介する。実は本誌編集長も調べ物などで度々お世話になっている施設だ。この施設は黒たまごやお土産を扱っているショップ、カフェがある。「黒たまご館」一階にある入口は黒たまご館に向かう

箱根ジオミュージアムで箱根の地形の形成過程を知る

しかし、観光でお越しになるほとんどの方が、展望台から谷の底を眺め、黒たまごを召し上がって、黒たまごのおブジエの前で記念撮影、晴れていれば富士山の風景をカメラに収めてお帰りに帰ります。

冬の寒い日は一〇分ほどで退散してしまう海外からのお客様もいらっしゃる。本誌編集長は日頃から残念に感じていた。そこで、今号では大涌谷をさらに楽しめる施設として大涌谷園地内にある「箱根ジオミュージアム」を紹介する。実は本誌編集長も調べ物などで度々お世話になっている施設だ。この施設は黒たまごやお土産を扱っているショップ、カフェがある。「黒たまご館」一階にある入口は黒たまご館に向かう

て右側のスロープを下ったところだ。もちろん、黒たまご館の館内から階段で一階に下ることもできる。

二〇〇三年に老朽化のために閉館した「箱根町立大涌谷自然科学館」の後継の施設として二〇一四年に開館。箱根町観光課が運営しており、箱根ジオパークの拠点施設としても位置付けられている施設だ。

箱根ジオミュージアム内

では箱根の地形の形成過程や地層・地質、蒸気井温泉の仕組みなどが画像や模型などで詳しく解説されている。

箱根の地形の形成過程

る。特にお勧めなのは箱根の地形の形成過程。ある中央火口丘がどのようなプロセスを経て形成されたのか、芦ノ湖がいつ今の形になったのかが写真と解説で丁寧に説明されている。また、大涌谷の源泉として供給されている蒸気井温泉の仕組みも模型やジオラマで紹介されているのでご覧いただきたいところだ。



金崎山などの外輪山は、小さな富士山のような山の集まりを作っていました。A large mountain, such as Mt. Kinokuniya, was made up of many smaller mountains. It took about 400,000 years ago.



その後、大小の噴火を繰り返して、現在の地形は大きく変わっていきまます。A large and small eruption repeated over time, and the geographical features of nature changed a lot.



その後、大小の噴火を繰り返して、現在の地形は大きく変わっていきまます。A large and small eruption repeated over time, and the geographical features of nature changed a lot.



崩れた土砂は、仙石原付近に流れ落ちました。Collapsed earth and sand flowed near Sangohara, and Mt. Mt.



実した箱根観光になるだろう。英語表記もあるので、海外からのお客様にもお勧めだ。年中無休で開館時間は九時〇〇分〜一六時〇〇分。入場料は一〇〇円。

名店訪問 箱根食堂開店

昨年一〇月、宮城野に新しい食堂が開店した。店名は箱根食堂。オーナーはノブレストランで知られる松久信幸氏。

四季折々の風景とともに訪れる人が心地よい時間を過ごせる場所というところで、宮城野に出店したとのこと。宮城野は強羅や仙石原、桃源台方面に向かうお客様も立ち寄れる絶好のロケーションだ。「こ来店いただけるお客様にとって、ほっとするレストランでありたい。」と



今回の、本紙編集長は二回訪問して、「ランチボックス」と「ミニアジア丼と冷たいお蕎麦のセット」を堪能。ランチボックスはお寿司にカリフォルニア巻き、アジのフライ、チキンにサラダ。味ポリリウムとも大満足。



箱根観光情報新聞は昨年一二月に創刊六周年を迎え、今号は四八号目、累計発行部数は三一、九〇〇部となりました。創刊以来、取材や配布にご協力いただいた皆

創刊六周年・写真展開催



「ミニアジア丼と冷たいお蕎麦のセット」は新鮮なアジの丼と店内手打の二八蕎麦。のど越しが良く絶妙な味わい。スタツフの方の接客も素晴らしい。気になる「香ばしロティサリーチキンのピリ辛コク旨カレー」も鶏・カツオの出汁を使うなど和風の味付だ。

様厚く御礼申し上げます。なお、今年（令和八年）三月に宮ノ下のNarayana Cafeギャラリーで箱根観光情報新聞写真展「編集長がみつめた箱根の景色」を開催することになりました。写真展の詳細や編集長出社日（在廊日）は本紙ホームページ、フェイスブックでお知らせしますので、どうか宜しくお願いします。

お願い

本紙ではお客様にできる限り正確に情報をお伝えするよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設のホームページなどで営業日、営業時間などをご確認ください。よろしくお願いいたします。

なお、左記QRコードで過去の記事や画像、編集長の思い出などを紹介した本紙ホームページにアクセスできるのでお試しください。



箱根に観光に来たけれど「どこを見たらいいかわからない。」「効率的に観光したいけれど・・・。」とお悩みのあなた箱根観光は登山ハイヤーがお勧めです。今すぐ 0120-148-512(携帯OK)へ



箱根観光情報新聞QRコード